

家族愛

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	[一般的な呼称例]
(6) 父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	家族愛

●解説

全体的な理解	人間は、過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。そこで、まず、自分が在るのは、祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられたからであることに気付かせることが大切である。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることが必要である。今日家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は一様でないが、その家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切であるということの自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。
発達的な観点	中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まってくる。そのため父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。ちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定するかのよう思えて、反抗したい気持ちになる。しかも、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、喜怒哀楽を共にし、生活の苦労を分かち合いながら、人間関係の機微を学んだり、家族の連帯を自覚したりする機会も少なくなってきた。
指導の着眼点	指導に当たっては、まず、この時期に、自分と家族とのかかわり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解できるようにすることが大切である。その際、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、家庭生活を営む上で、自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが、自分の課題であることに気付くことができるようにすることが大切である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	[一般的な呼称例]	
低学年	(3) 父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。	家族愛
中学年	(3) 父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくる。	家族愛
高学年	(5) 父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをする。	家族愛